



赤ちゃん・ちびっこ通信

Vol. 7 (2011年3月発行)

例年になく寒かった冬も明けたようです。本年度の調査にご参加くださった研究員の皆さま、お忙しい中調査室までお越しくださった保護者の皆さま、まことにありがとうございました。今回は予定があわなかった方、また調査の対象年齢の都合で残念ながら調査をお願いできなかった方には、たいへん申し訳ありませんでした。皆さまのお力添えで、九州大学「赤ちゃん・ちびっこ研究員」も今年度で8年目を迎え、3月現在で1063人の方にご登録を頂いています。日頃のご理解・ご協力に、スタッフ一同心より感謝申し上げます。

調査を通して得た発見や貴重な情報を、学会で発表したり、論文や文章にまとめたりして、（時間はかかりますが）さまざまな方にきちんとお伝えすることをスタッフ一同心がけております。また、その発見や知識が、赤ちゃん・お子さん、保護者の方に、有形無形のかたちでご協力いただいたことによって成り立っていることを常に忘れずに、日々の調査・研究にあたりたいと考えています。これからも新しい調査をたくさん予定しております。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします！

今年度ご協力いただいた&現在進行中の調査をご紹介します

今年度ご協力いただいた調査は、「日本赤ちゃん学会第10回学術集会」(東京大学)「第21回日本発達心理学会」(神戸国際会議場)等の学会・研究会で順次発表させていただきました。

赤ちゃん研究

場面の違いと赤ちゃんの言葉の聞き方についての調査

担当者：松本周子 対象：7～8ヶ月児

赤ちゃんは、自分に話しかけられているときだけでなく、日常生活のいろいろな場面で言葉を聞いて学習していると考えられますが、場面が異なると赤ちゃんの言葉の聞き方も変わるのでしょうか？話し手が赤ちゃんに話しかける場面、赤ちゃんを抱っこしたお母さんに話しかける場面、赤ちゃんの前で電話をする場面と、姿は見えませんが聞こえる場面を設定して、調査を行っています。また、母子遊びの場面でお母さんに話してもらって調査も行っています。

赤ちゃんへのまなざしの影響に関する調査

担当者：坂口晋一 対象：5～7ヶ月児

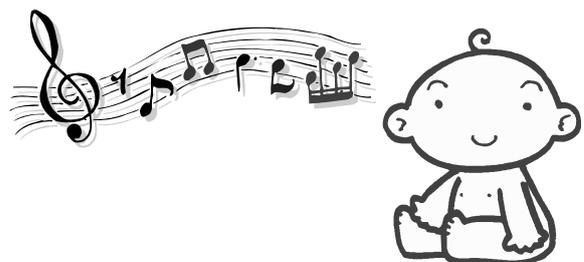
私たちは、日常生活の中で見つめられることがあります。その中で、好きな人に見つめられた場合や成功したことを見てほしいと思った時に見てくれた場合、単に相手に見られたということだけではなく、嬉しいといったような想いを抱くと思います。では、赤ちゃんも同じような気持ちなののでしょうか。そこで本調査では、紐を引っ張ると「赤ちゃんを見つめる女性」あるいは「赤ちゃんから目をそらした女性」が現れる装置を用いて、赤ちゃんが紐を引く様子が違ってくるのかについて調べています。

赤ちゃんの情動情報の抽出に関する調査

担当者：畑涼子・松浦由巴子・廣政祐和・曹叢蕾

対象：8～10ヶ月児

赤ちゃんは、周りの人の表情を見分けることができるということが分かっています。そこで、絵本などにある顔のイラストの表情は、実物の人と同じように見分けているのかについて、「Tobiiアイ・トラッカー」という装置を用いて調べました。また、赤ちゃんは音楽を聴いて、「嬉しい」「悲しい」などの感情を読み取ることができるとされています。そこでもう一つの調査として、人の表情が示す感情と音楽の感情を結びつけることはできるかどうかを調べています。



「ありがとう」は、私たちにとってとても身近な言葉のひとつです。「ありがとう」と言われた人はとてもうれしい気持ちになるため、感謝の言葉を相手に伝えることは、日々の生活を過ごす上において、とても大切なことだと考えられています。それでは、子どもはどのようにして「ありがとう」と言えるようになるのでしょうか？ 今回の調査では、子どもにとって“知らない人”である調査者に対する子どもの行動や、その際のお母さんの関わり方について観察します。

子育てする母親の支援ネットワークに関する調査

担当：石川勝彦 対象：保護者

子育て期の母親たちは家庭責任や雇用、そのほかの多くの日常業務を同時にこなしています。こうした過重に適切に対応することは、母親自身の心理的安寧を維持したり、希望どおりのライフデザインを実現するうえで重要です。適切な対処方略のひとつに、ひとに頼る、というものがあります。さまざまな局面において、必要に応じて助けてくれるひとが存在することが重要だとおもわれます。本調査ではアンケートを用いて、子育て女性の保有する支援ネットワークの一般的な構造的特性を調べます。これに加えて、支援性能の高いネットワークがどのような特性をもっているのかを調べ、機能的な支援システムが備えるべき条件を探索します。

3歳児はロボットのふるまいの違いを見分けるか？

担当者：稲永紗季 対象：3歳児

私たちのコミュニケーションは、ある程度の「予測」のもとで成り立っています。相手に働きかけた時にどのような反応が返ってくるか、まったく予測がつかないとしたら、コミュニケーションを取るのには難しいでしょう。しかし逆に、完全に予測がついてしまったとしても、その相手に対して機械のような印象を抱いてしまうかもしれません。今回の調査では、キーボンと名づけられたロボットを利用して、子どもがボタンを押したときに“どのような反応をするのか予測できる”あるいは“たまたま予想外の反応がある”状況を作り、それぞれの場合に子どもがどのような反応を示すのか観察します。

子どもの色のグループ分けと知覚による影響に関する調査

担当者：秀島芙美香 対象：5歳児

私たちの生活の中には無数の色が存在しています。よく見ると、同じ「色名」（たとえば「赤」）で表現されていても、微妙に色が異なることがあります。私たちは、細かな色の違いを見分けながらも、いくつかの色をひとつの「名前」でまとめています。では、色の名前を覚えた子どもたちは、大人と同じように色の微妙な違いをどのように区別し、まとめられているのでしょうか。この調査では、お子さんには色の名前によるグループ分けと、実際に見せられた色の見本を元にしたグループ分けをおこなってもらいます。



研究室からのお知らせ

- 私どもの研究室では現在、0～6歳頃までのお子さんと保護者の方に調査のご協力をいただいております。0～1歳のお子さんを「赤ちゃん研究員」、2歳～就学前までのお子さんを「ちびっこ研究員」としてご登録させていただいております。登録の切り替えは毎年4月に行っております。4月時点で2歳になられているお子さんにつきましては自動的に「ちびっこ研究員」へと登録を移行させていただいております。引き続きのご理解、ご協力をお願い申し上げます。
- お引越しなどで登録内容（電話番号・住所など）に変更が生じた場合は、ご連絡いただければ幸いです。また、遠方へのお引越し等で登録の解除を希望される場合は、その旨をご一報いただければ大変ありがたいです。こちらで変更の手続きをさせていただきます。
- 4月に小学校へ進学される皆さま、ご入学おめでとうございます。「赤ちゃん・ちびっこ研究員」の登録は就学年齢で終了とさせていただきます。長らくのご協力、まことにありがとうございました。ご登録いただいていた個人情報はこちらで責任を持って削除させていただきます。

連絡先

九州大学 人間環境学研究院・教育学部 発達心理学講座

橋彌 和秀（はしや かずひで）：准教授

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1（教育心理棟3階307号室）

TEL & FAX: (092) 642-3143 E-mail: babykyushu@yahoo.co.jp

Web : <http://www.hes.kyushu-u.ac.jp/devpsy1/is/index2.html>

九州大学 赤ちゃん研究員

検索

